

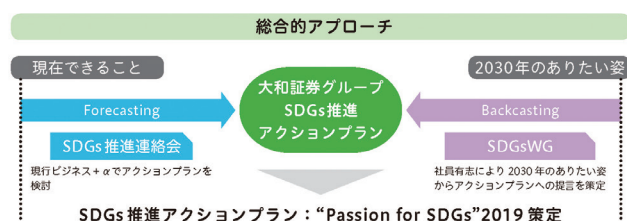
## 株式会社大和証券グループ本社

## 参加型のSDGs戦略策定

大和証券グループ(大和証券)による環境社会分野への取組みは長い。1972年には中高年の疾病予防等に関する研究助成を行う大和証券ヘルス財団が設立され、1999年には社会貢献室が設置された。2008年に予防接種のための国際金融ファシリティ(IFFlm)が発行する、途上国の子どもたちにワクチンを提供する資金を調達するワクチン債を引き受けて以降は、社会貢献が本業の中でも認識されるようになり、こうした「インパクト・インベストメント<sup>1)</sup>」にも力が注がれてきた。その結果、2008年3月～2019年3月末の期間に販売された、日本の個人投資家向けのSDGs債(インパクト・インベストメント債券)総額1兆4,077億円のうち、大和証券による販売額は6,974億円(約50%)を占めている(大和証券調査に基づく)。

同社において本業を通じたSDGsへの取組みが本格化したのは、2017年に中田誠司氏が執行役社長(CEO)に就任して以降である。2018年には、中田氏を委員長としたSDGs推進委員会を設置。さらに、経営戦略の根底にSDGsの観点を取り入れた中期経営計画[“Passion for the best” 2020]、および経済的価値と社会的価値の両立、すなわち共通価値の創造を掲げた「Passion for SDGs 2018～大和証券グループSDGs宣言～」を策定した。SDGsとESGは重複部分も多いことから、大和証券では、このようにSDGsを本業に取り入れることが、ESG評価の向上にもつながると考えている。

大和証券のSDGsの取組みの中で興味深いことのひとつが、「大和証券グループSDGs推進アクションプラン Passion for SDGs 2019」の策定プロセスである。このプロセスは、大別して2つある。一つは、各本部、グループ各社の担当者で構成される「SDGs推進連絡会」が現行ビジネスをもとに「現在できる取組み」を検討したこと。もう一つは、海外拠点や支店を含むグループ全体で社内公募した社員有志約120名で編成した「SDGsワーキンググループ」が「2030年のありたい姿」、つまり理想像から実施すべきことをバックカスティングで検討し、アクションプランへの提言を行ったことである。



「SDGs推進アクションプランPassion for SDGs 2019」の策定プロセス

同アクションプランでは、以下の4点に取り組むことで、持続可能な資金循環を生むことを目指している。第一に、SDGsの普及啓発を図りSDGsへの投資ニーズを喚起すること。第二に、SDGsへの投資ニーズに応える金融商品の提供により、資金需要主体への安定的な資金供給を可能にすること。第三に、投資やコンサルティング事業等を通じて、SDGsに資する産業や企業等を直接的に支援すること。第四に、企業活動による社会へのインパクトの適切な評価を資金運用主体にフィードバックし、さらなる投資機会創出につなげていくことである。

大和証券では、SDGsと事業の融合を検討し始めるため、2018年4月、経営企画部内にSDGs推進室を新設し、グループ全体へのSDGs浸透及び取組み推進を図っている。同年10月には、さらに社内の組織改正を行い、従来ESGやCSRを担当していた広報部CSR課の機能をSDGs推進室に統合した。この統合の背景には、本業の中で利益を生みながら社会に役立つ事業を中心に据え、かつ社会に貢献するための取組みを全てSDGsの枠組みの中で行うという考えがある。

現在、大和証券では新たに事業を立ち上げる際、SDGsのレンズを通して検討を行うことにしている。SDGs推進室では、社員から、自分が担当するビジネスをSDGsの観点でどのように捉えるべきか、ということに関する問い合わせが多くあるという。

<sup>1)</sup> インパクト・インベストメントとは、投資に際して、経済的利益を期待するだけでなく、貧困や環境問題などの社会課題に対して解決を図る用途に資金の使途を限定する投資のこと。